



「ふるさと三重」郷土教育推進事業

教材の開発と授業実践



<問い合わせ先>

三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325

三重県多気郡明和町竹川 503

TEL 0596-52-1732

URL <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun>



平成27年11月
三重県埋蔵文化財センター

はじめに

三重県教育委員会では、郷土を愛する心を育てるため、平成24年度から「ふるさと三重」郷土教育推進事業に取り組んでいます。この事業は、三重県教育委員会小中学校教育課、社会教育・文化財保護課、埋蔵文化財センターが連携して行っています。

埋蔵文化財センターでは、三重県独自の文化財を活用した様々な学習教材を開発し、その学習教材や本物の文化財を活用した授業を県内の小中学校で実践してきました。また、本物の文化財に触れたり、古代の生活体験ができるイベント等を開催しました。

本冊子は、これまでに開発してきた教材や、その活用例を紹介するものです。子どもたちが教科書には掲載されていない「地域の宝」である文化財について学習し、親しみ、その価値を理解することで、三重県に誇りと愛着を感じ、学ぶことの楽しさを実感し、学習意欲を向上する一助になれば幸いです。

開発した学習教材

● 平成24年度

紙芝居「カミュとイシリとハバキの森」

「ほおかぶりをしたハニワ馬」

馬形埴輪の実物大大型パズル

三重の文化財すごろく

銅鏡模造品

● 平成25年度

食器・食事模型 縄文時代2種・弥生時代2種・奈良時代1種

食事パネル 縄文時代1種・弥生時代1種・奈良時代2種

食事カード 奈良時代

三重の城すごろく

● 平成26年度

DVD「三重の古墳」

古墳時代復元画 東条1号墳埋葬復元図

宝塚1号墳埴輪を運ぶ人々の想像図

木簡模造品 奈良時代5種

● 平成27年度

ふるさと三重めぐり

「ふるさと三重」郷土教育推進事業 教材の開発と授業実践（本冊子）

授業実践校

●平成24年度

四日市市：西橋北小学校

菟野町：朝上小学校

鈴鹿市：庄野小学校

津市：神戸小学校、片田小学校

松阪市：松ヶ崎小学校、東黒部小学校、豊地小学校

大紀町：錦小学校

志摩市：片田小学校

伊賀市：花之木小学校

尾鷲市：宮之上小学校

熊野市：神上小学校

●平成25年度

津市：神戸小学校、雲出小学校、家城小学校、美杉小学校

松阪市：阿坂小学校

伊勢市：豊浜東小学校

鳥羽市：答志小学校

御浜町：尾呂志学園小学校

伊賀市：上野東小学校、神戸小学校

●平成26年度

四日市市：内部小学校

いなべ市：石樽小学校

松阪市：阿坂小学校、漕代小学校

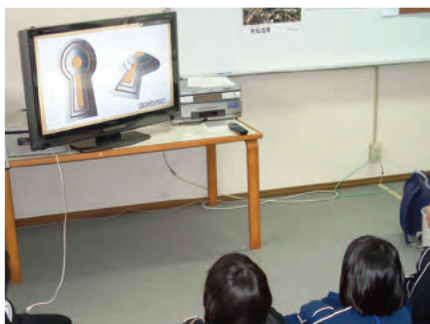
明和町：修正小学校

鳥羽市：答志小学校、神島中学校

御浜町：尾呂志学園小学校

熊野市：飛鳥小学校

名張市：つつじが丘小学校

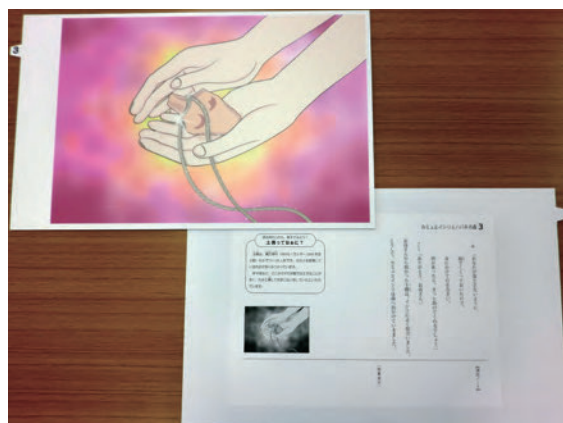


製作教材と活用事例

縄文時代

◆ 紙芝居「カミュとイシリとハバキの森」

日本最古級の土偶が見つかった、^{かゆみ いしり いせき} 粥見井尻遺跡（松阪市）が舞台の物語です。狩猟採集の生活をしてきた縄文人の男の子（カミュ）と女の子（イシリ）が主人公で、お守りや身代りとしてつくられたといわれる^{どくう}土偶が登場します。



● 紙芝居の大きさ

標準サイズ（41.8×26.3 cm）だけでなく、教室やイベント等でも使用できる大型サイズ（61.3×43.0 cm）も製作しました。

● ストーリー

ある日、幼なじみのカミュとイシリは、お母さんたちから森で木の実を集めてくるように頼まれました。ただし、森のヌシであるハバキの住む森の奥には行ってはいけないことを告げられ、イシリにはお守りの土偶が渡されました。

二人がクリやドングリをいっぱい集めていたところ、シカが現れて、二人はそのシカを捕まえようと森の奥へ入り、迷子になってしまいます。ところが、そこは森のヌシ、ハバキの森でした。ハバキを怒らせた二人はピンチに陥りますが、イシリがもっていた土偶が身代りになり、二人は無事に家に帰ることができました。

● 授業の流れ（一例）

- ねらい ● 紙芝居の視聴を通して、縄文時代の人々が狩猟採集の生活をおくっていたことを理解する。
 - 日本最古級の土偶が三重県からみつかっており、お守りのように大切に使われていたことを理解する。
- 縄文時代の人々の暮らしについて解説します。
- 紙芝居を上演します。
- 紙芝居で登場した土偶を取り上げ、詳しく解説します。（実は日本最古級のものである）
- 紙芝居の感想や授業の感想を発表し、まとめとします。

● 土偶とは？

土偶は、縄文時代（今から1万3000～2300年ほど前）の粘土でつくった人形です。女性を表現しているものが多くみつかっています。土偶には様々な形をしたものがあり、中でも目の部分が大きく表現された遮光器形土偶しゃこうきがたどぐうが有名ですが、これは東北地方を中心に出土するもので、三重県内での出土例はありません。

手や足など、どこか欠けた状態で出土することが多く、人の身代りとしてわざと壊しておまじないをしていたといわれています。

日本では、東日本での出土例が多いですが、最古級の土偶は三重県松阪市の粥見井尻遺跡かゆみいじりいせき、滋賀県東近江市の相谷熊原遺跡あいだにくまはらいせきで出土しています。

三重県内では、100点以上の土偶がみつかっていますが、そのうち75点が松阪市の天白遺跡てんぱくから出土しています。



しゃこうきがたどぐう
遮光器形土偶



かゆみいじりいせきしゅつどどぐう
粥見井尻遺跡出土土偶



てんぱくいせきしゅつどどぐう
天白遺跡出土土偶

● 粥見井尻遺跡出土の土偶

紙芝居に登場する土偶は、縄文時代草創期（今から1万3000年以上前）の粥見井尻遺跡からみつかった土偶をモデルにしています。

粥見井尻遺跡では、竪穴住居跡が4棟もみつかり、その中から、日本最古級の土偶が2点出土しました。このうち、ほぼ完全な形をした土偶は、高さ6.8cm、幅4.2cmの小さなもので、頭と乳房が表現されたシンプルな形をしています。

● 三重県埋蔵文化財センターが発掘調査した縄文時代の遺跡

宮山遺跡みややまいせき（いなべ市大安町）、中野山遺跡なかのやまいせき（四日市市北山町）、東庄内A遺跡ひがししょうないえーいせき（鈴鹿市東庄内町・亀山市川崎町）、大鼻遺跡おおばないせき（亀山市太岡寺町）、大石遺跡おおしいせき（津市芸濃町）、粥見井尻遺跡かゆみいじりいせき（松阪市飯南町）、天白遺跡てんぱくいせき（松阪市嬉野釜生田町）、鴻ノ木遺跡こうのきいせき（松阪市射和町・中万町）、新徳寺遺跡しんとくじいせき（多気町相可）、上ノ垣外遺跡うえのがいといせき（多気町荒蒔）、野添大辻遺跡のぞえおおつじいせき（大紀町野添）

以上の遺跡については、当センターの縄文土器などを持参することができます。

※他にも、県内各地にたくさんの遺跡があります！

縄文・弥生時代

◆ 食器・食事復元模型とパネル

食器は、三重県内の遺跡から出土した土器を観察して、実際に粘土を焼いて製作しました。中身のメニューは、本物の食材を型どりして合成樹脂を使ってつくりました。

● 縄文時代



復元した土器の出土遺跡：新徳寺遺跡（多気町）

【メニュー】

- アイナメ・鳥肉・ワカメ・ヤマノイモの煮もの（左側）
- クリ、クルミ、アサリのむき身を干したものの、縄文クッキー（中央）

※縄文クッキー

アク抜きしたドングリなどの木の実の粉、ヤマノイモ、肉の細切れや卵などを混ぜて焼いたもの

● 弥生時代



復元した土器の出土遺跡：鳥居本遺跡（左側・津市）、村竹コノ遺跡（中央・松阪市）

【メニュー】

- ハマグリ・イイダコの煮もの（左側）
- 赤米の飯（中央）

● 三重県埋蔵文化財センターが発掘調査した弥生時代の遺跡

東庄内B遺跡（鈴鹿市東庄内町）、大木ノ輪遺跡（鈴鹿市林崎町ほか）、納所遺跡（津市納所町）、長遺跡（津市河辺町）、橋垣内遺跡（津市大里窪田町）、鳥居本遺跡（津市一志町）、中ノ庄遺跡（松阪市三雲町）、堀町遺跡（松阪市朝田町）、村竹コノ遺跡（松阪市上川町）、金剛坂遺跡（明和町金剛坂）、寺垣内遺跡（明和町金剛坂）、大藪遺跡（伊勢市磯町）、北切遺跡（伊賀市富永）、観音寺遺跡（名張市中村）

以上の遺跡については、当センターの弥生土器などを持参することができます。

※他にも、県内各地にたくさんの遺跡があります！

● 授業の流れ（一例）

ねらい ● 縄文時代・弥生時代の食事メニューの特徴、調理方法、土器の種類や用途について理解する。

- 三重県内から出土した遺物について、間近で観察したり、触れたりすることを通して、大昔の人々が暮らしに使った道具について理解する。

- 「遺跡」「遺構」「遺物」の用語について解説します。
- 縄文時代や弥生時代の食事について考えます。
- 縄文時代や弥生時代の食事メニューについて、食事復元模型を使って解説します。
- 縄文時代の調理方法の一例について、三重県内の遺跡からみつかった遺構をもとに紹介します。
- 地元の遺跡について地図をもとに紹介します。
- 本物の土器や石器に触れて観察します。

● 授業用解説（一例）

【用語解説】

- 遺跡…生活のあと（ムラ、お城、お墓など）
- 遺構…遺跡の中にある建物や井戸などのあと
- 遺物…遺構から出てきた土器や石器など

【縄文時代の食事】

- 季節によって、狩りや漁、木の実を集める採集の暮らし
肉。鳥。魚：シカ。イノシシ。ウサギ。鳥。魚。貝など
シカ。イノシシ。ウサギなど：足が速いので、弓矢が発達
※縄文時代より前は、槍を使ってナウマンゾウやオオツノジカなど大きな動物を捕まえた。
※魚は、地域によっては船でマグロなど大きな魚も捕まえた。

植物：木の実（クリ・クルミ・ドングリ・トチの実など）、果物、山菜、
ワカメ。コンブなどの海藻

- ※ドングリ。トチの実はそのままでは食べられない ⇒ 水にさらす、煮る
⇒早くから土器が発達（※縄文土器は世界で最も古い土器のひとつ）

● 調理方法

石焼き、蒸し焼き、煮る、干す、くんせい？、塩づけ（縄文時代の調味料は基本的に塩）

【弥生時代の食事】

- 田で米をつくる稲作や、野菜を栽培する畑作が本格化
- 縄文時代に食べていたものに加えて、稲作や畑作でとれたものを食べていた。

古墳時代

◆ 紙芝居「ほおかぶりをしたハニワ馬」

全国でも石薬師東古墳群（鈴鹿市）でしかみつからない、変わった頭の形をした馬形うまがた埴輪はにわを題材にした物語です。頭の形が何を表現しているのか、様々な説がありますが、紙芝居では何かをかぶっている状況表現している、という一説を取り上げています。



● 紙芝居の大きさ

標準サイズ（41.8×26.3 cm）だけでなく、教室やイベント等でも使用できる大型サイズ（61.3×43.0 cm）も製作しました。

● ストーリー

今から1500年も前、鈴鹿のあるクニに、オワジという王様がいました。オワジはいつも威張っていましたが、自分が死んだ後も、みんなに自分のことを覚えておいてほしいと、自分のお墓を埴輪で飾って立派にみせることにしました。

オワジ自慢の馬とそっくりな埴輪をつくるように命令されたウカリは、一生懸命に馬の埴輪をつくらうとしますが、タテガミを仕上げで完成という時になると、必ず馬があばれて粘土を踏みつぶしてしまいました。オワジはウカリの話を聞いて、自分の父から馬をもらった時、伸び放題だったタテガミをきれいに切りそろえたところ、馬がそれを気に入らず、いつも不機嫌であることを思い出しました。しかし、タテガミを伸ばしっぱなしでは笑いものになってしまうので、馬にタテガミが元通りに戻ったと思わせるため、頭に布でほおかぶりをさせたところ、馬は満足しておとなしくなりました。

こうして、見事な馬の埴輪を飾った墓が完成し、この埴輪を見ようとたくさんの方がお墓参りをしにきましたが、馬のことは言い伝えられても、そのうち誰のお墓だったかは忘れられてしまいました。

● 授業の流れ（一例）

ねらい ● 紙芝居の視聴を通して、古墳時代の王が権力を示すために古墳をつくり、中には埴輪を飾る古墳もあったことを理解する。

● 三重県では、珍しい頭の形をした馬形埴輪うまがたはにわがみつかっており、三重県にはすばらしい文化財があることを理解する。

○ 「古墳」こふん「埴輪」はにわの用語について解説します。

○ 石薬師東古墳群いしやくしひがしこふんぐんからみつかった馬形埴輪の実物大写真を使って、詳しく解説します。

○ 紙芝居を上演します。

○ 紙芝居の感想や授業の感想を発表し、まとめとします。

● 埴輪とは？

埴輪は、古墳時代（今から1700～1400年ほど前）に粘土を使ってつくられたもので、古墳（王や豪族の墓）の上やまわりに並べられました。

埴輪の多くは筒型をしたもので、古墳を囲むようにたくさん並べられました。巨大な古墳になると、その数は数千本以上にもなります。他にも馬やニワトリなどの動物、巫女みこや武人ぶじんなどの人、家、盾たてやよろい、かぶとなど様々な形の埴輪があります。

埴輪には、古墳が神聖な場所であることを示すため、あるいは儀式のようすを再現しているなど、様々な意味があったようです。

馬形埴輪は石薬師東古墳群（鈴鹿市）から出土したものが、その頭の形や大きさから有名ですが、様々な形の埴輪が出土した古墳としては、宝塚1号墳たからづかごうふん（松阪市）が特に有名です。中でも、船形埴輪は全体の形がわかるものとして、全国最大です。

● 石薬師東古墳群出土の馬形埴輪

紙芝居に登場する馬形埴輪は、古墳時代後期（今から1450年ほど前）の石薬師東古墳群（鈴鹿市石薬師町）からみつかった馬形埴輪をモデルにしています。

三重県消防学校の施設整備にともなう発掘調査で、少なくとも64基以上の古墳がみつかっています。

63号墳からみつかった馬形埴輪は、県内最大で、長さ約110cm、高さ約85cmもあります。一般的な馬形埴輪は、切りそろえられたタテガミとなっていますが、この埴輪はそうではありません。タテガミを長く伸ばしているのか、あるいは何かをかぶっているような、変わった形をしています。このような頭の形をした馬形埴輪は全国でも他に例がなく、何を表現しているのかは、いまだにわかっていません。



石薬師東古墳群出土
馬形埴輪



なかのしょういせき
中ノ庄遺跡出土
馬形埴輪
(一般的なタテガミの表現)

◆ 古墳時代復元画

県内で行われた古墳の発掘調査成果をもとに、古墳をつくっている場面や古墳に遺体を埋葬するようすを復元したイラストを製作しました。イラストは、考古復元イラストレーターの第一人者である早川和子氏に作画していただきました。

イラストは、DVD「三重の古墳」の中でも活用しています。

● 埴輪を運ぶ人々 復元した古墳：宝塚1号墳（松阪市）



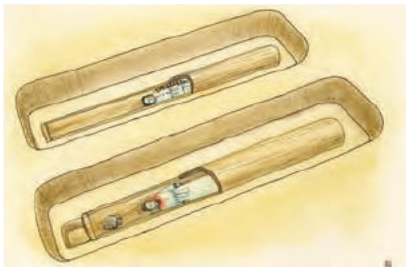
宝塚1号墳造り出し
現地での復元状況
(松阪市教育委員会提供)

宝塚1号墳（松阪市）では、発掘調査によって造り出しとよばれる儀式をしていた舞台から、様々な形の埴輪が出土しました。中でも、船形埴輪は全体の形がわかるものとして、全国最大の大きさです。

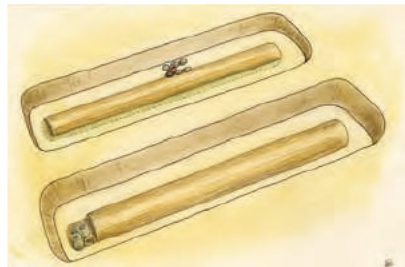
復元画では、埴輪や古墳の大きさ、作業のようすがわかりやすいように、古墳時代の人々が造り出しに埴輪を並べている場面を表現しました。

● 埋葬復元図 復元した古墳：東条1号墳（伊賀市）

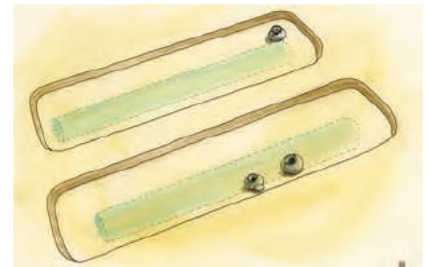
①



②



③



東条1号墳（伊賀市）では、発掘調査によって男性と女性が並んで埋葬されていたことがわかりました。男性は刀や鉄の矢じり、女性は勾玉の首飾りや腕輪、鏡などとともに埋葬されていました。また、棺をすえてから完全に埋め終わるまでの間に、少なくとも2回のまつりを行っていました。

復元画では、そのようすを3枚のイラストでわかりやすく表現しました。



◆ 銅鏡模造品

井田川茶白山古墳（亀山市）から出土した画文帯神獸鏡を^{がもんたいしんじゅうきょう}もとに、銅鏡の模造品を製作しました。本物の画文帯神獸鏡から型をとり、古墳時代の鏡の成分を参考に鑄造し、磨いてつくっています。手にとって顔を映したり、重さを体感していただけます。



画文帯神獸鏡の実物



画文帯神獸鏡の模造品



模造品の鏡面には顔も映ります

- 直径：20.7 cm（元資料 21.0 cm）
- 重さ：1161 g（元資料 1146 g）
- 成分：銅 75%、錫^{すず} 20%、鉛 5%

● 井田川茶白山古墳

井田川茶白山古墳は、現在の亀山市みどり町にあった横穴式石室をもつ古墳です。古墳の形は削られたため、わかっていません。石室の中には、石を組み合わせ^{よこあなしきせきしつ}てつくった棺^{ひつぎ}が2基と、棺を置いていたと思われる台が1基あり、3人が埋葬されていたことがわかっています。

副葬品^{ふくそうひん}として、鏡や刀、馬具、土器などがみつかっています。中でも、画文帯神獸鏡のひとつは、同じ型を使ってつくられた鏡が、明和町や鳥羽市神島など全国で26枚みつかっています。また、刀には銀で竜をあしらった模様が施されており、葬られた人の力の大きさがうかがわれます。

● 三重県の古墳 大きさベスト5！

順位	古墳名	読み方	大きさ（全長）	所在地
1	御墓山古墳	みはかやまこふん	188 m	伊賀市
2	馬塚古墳	うまづかこふん	142 m	名張市
3	石山古墳	いしやまこふん	120 m	伊賀市
4	宝塚1号墳	たからづかいちごうふん	111 m	松阪市
5	女良塚古墳	じょろうづかこふん	100 m	名張市

※馬塚古墳・女良塚古墳は、美旗古墳群^{みはたこふんぐん}のひとつです。

◆ DVD「三重の古墳」

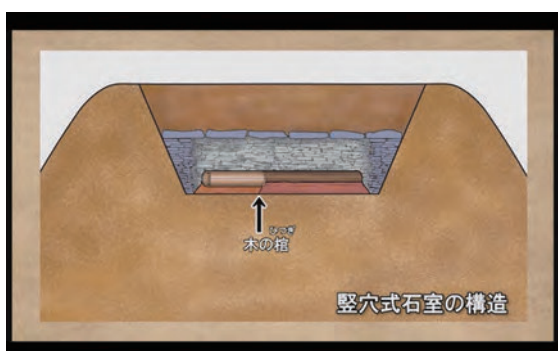
三重県内に存在する特徴的な古墳や発掘調査のようす、収蔵庫から外へ持ち出すことが困難な遺物（副葬品）などを映像で紹介する動画を制作しました。

● 内容

- ・全国的に有名な古墳
- ・古墳の種類
- ・県内の代表的な古墳
- ・県内の古墳から出土した代表的な遺物
- ・古墳の発掘調査のようす
- ・現地説明会のようす

● 制作部数

- ・DVD-R : 10部
- ・BD-R : 2部
- ・素材データ : 1部

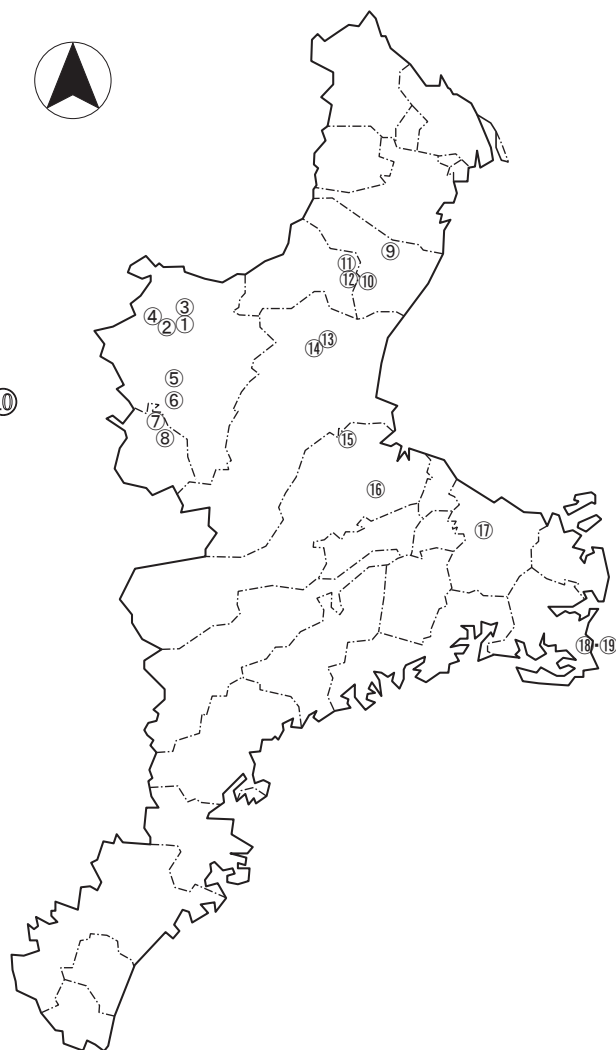


【紹介した三重県外の古墳】

- ・百舌鳥古墳群 (大阪府堺市)
- ・大仙古墳 (大阪府堺市)
- ・五色塚古墳 (兵庫県神戸市)
- ・森將軍塚古墳 (長野県千曲市)
- ・釜塚古墳 (福岡県糸島市)
- ・將軍山古墳 (埼玉県行田市)

【紹介した三重県内の古墳】

- 伊賀市：御墓山古墳①、東条1号墳②、御旅所古墳③、浅子谷古墳群④、石山古墳⑤、近代古墳⑥
- 名張市：美旗古墳群⑦、赤井塚古墳⑧
- 鈴鹿市：石薬師東古墳群⑨、保子里1号墳⑩
- 亀山市：能褒野王塚古墳⑪、井田川茶白山古墳⑫
- 津市：明合古墳⑬、大名塚古墳⑭
- 松阪市：小谷13号墳⑮、宝塚1号墳⑯
- 伊勢市：高倉山古墳⑰
- 志摩市：おじよか古墳⑱、塚穴古墳⑲



● 授業の流れ（一例）

ねらい ● DVD「三重の古墳」の視聴を通して、古墳時代についての理解を深め、より詳しく調べようとする意欲をもつ。

- 三重県内の古墳から出土した遺物（模造鏡も含む）について、間近で観察したり、触れたりすることを通して、古墳時代の人々が使った道具について理解する。

- 古墳の内部を想像し、発表します。
- DVD「三重の古墳」を視聴します。
- 古墳から出土した本物の土器・玉類・埴輪の他、銅鏡模造品などに触れて観察します。

● 三重県埋蔵文化財センターが発掘調査した古墳

ふでがさきこふんぐん 筆ヶ崎古墳群（四日市市小牧町）、いしやくしひがしこふんぐん 石薬師東古墳群（鈴鹿市石薬師町）、いだがわちやうすやまこふん 井田川茶白山古墳（亀山市みどり町）、かみしいのきこふん 上椎ノ木古墳（亀山市川合町）、こやしろうごふん 小屋城1・2号墳（津市安濃町）、なかのしょう 中ノ庄1号墳（松阪市三雲町）、ひらばやしこふんぐん 平林古墳群（松阪市伊勢寺町）、そとさたこふん 外佐田古墳（伊勢市二見町）、おちあい 落合古墳群（伊勢市津村町）、あさこだにこふんぐん 浅子谷古墳群（伊賀市三田）、むかいやまごふん 向山2・6号墳（伊賀市平田）、たかざる 高猿古墳群（伊賀市喰代）、ざいりょうよしだたにこふんぐん 才良吉田谷古墳群（伊賀市才良）、きんだいこふん 近代古墳（伊賀市上神戸）

以上の古墳については、当センターの須恵器や土師器などを持参することができます。

※他にも、県内各地にたくさんの古墳があります！

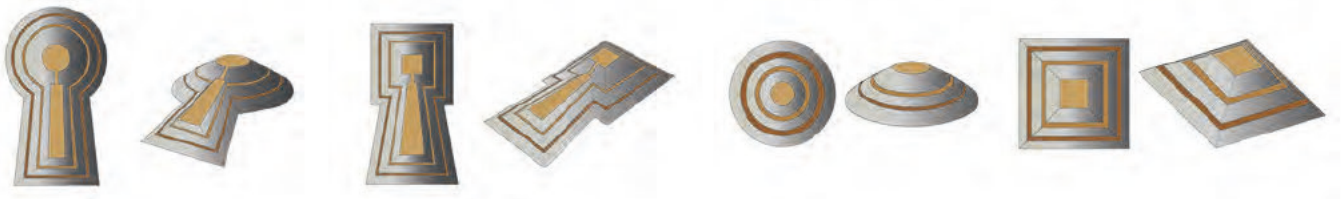
三重の古墳について知ろう！

名前 ()

1 古墳とは？

3世紀から7世紀ごろ、各地で勢力を広げ、クニをつくりあげた王や豪族の墓。
三重県内には、およそ7,100基もの古墳があるといわれています。

2 古墳の形



ぜんぼうこうえんふん
前方後円墳

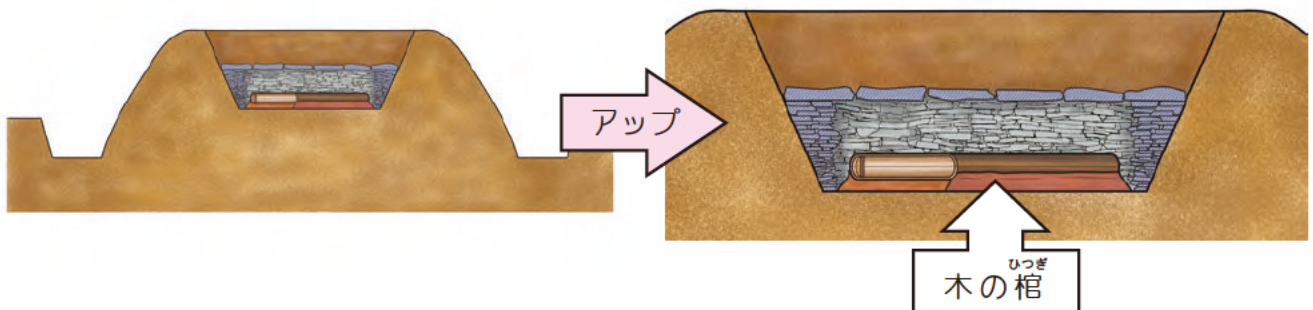
ぜんぼうこうほうふん
前方後方墳

えんぶん
円墳

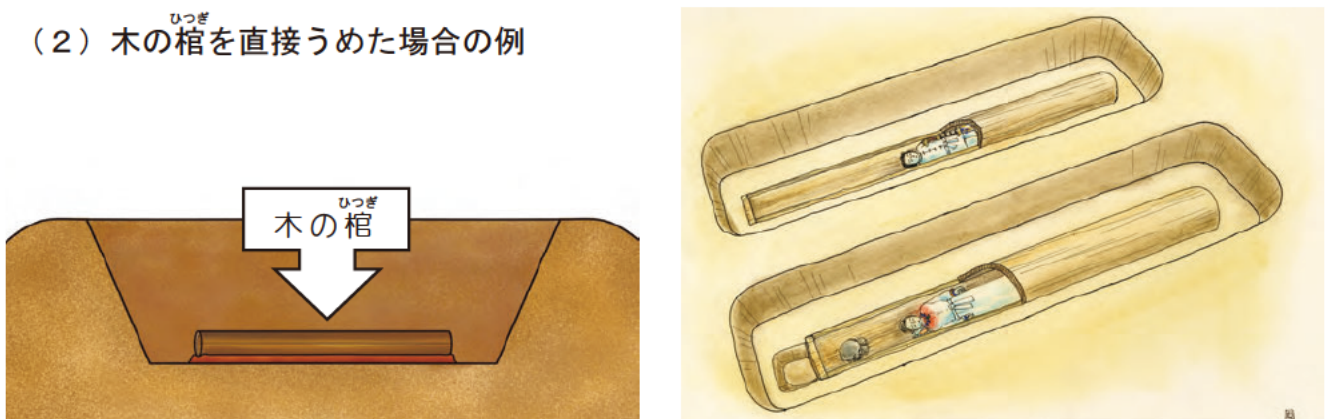
ほうふん
方墳

3 古墳の中ようす

- (1) 竪穴式石室たてあなしきせきしつ：古墳の上からあなをほり下げ、そこに石をつみ上げてつくった部屋。
亡なくなった人は、一人しか入れることができない。



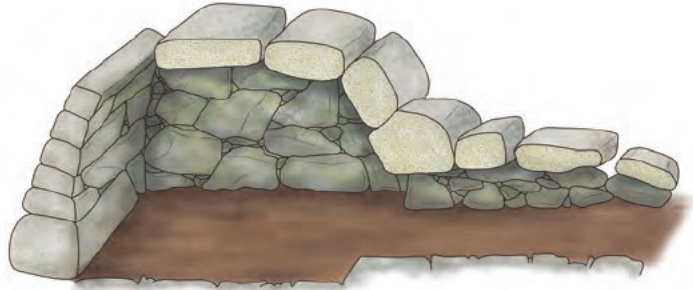
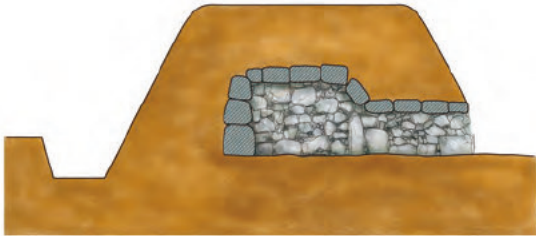
- (2) 木の棺ひつぎを直接うめた場合の例



ふくげんれい
復元例
(伊賀市 東条1号墳)

3 古墳の中ようす

- (3) ^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室：古墳の横がわに入口があり、奥に大きな石をつみ上げた部屋。
入口をふさいだり開けたりすることができるので、^な亡くなった人を複数人入れることができる。



- (4) ^{ふくそうひん}副葬品 ^な：亡くなった人にお供えされたもの。



かがみ

(亀山市 井田川茶臼山古墳出土)



飾りのアップ



かぶと と よろい

(かぶと：伊賀市 ^{きんだい}近代古墳出土)
(よろい：松阪市 ^{こたに}小谷13号墳出土)



刀

(亀山市 井田川茶臼山古墳出土)

- (5) ^{はにわ}埴輪：古墳の上に ^{なら}並べるために ^{ねんど}粘土でつくった ^や焼き物。
^{つつ}筒の形や人や船、動物などいろいろな形がある。



うまがたはにわ
馬形埴輪

(鈴鹿市 ^{いしかくしりがしこ}石薬師東古墳群出土)

奈良時代

◆ 食事カード

奈良時代の貴族の食事を、子どもたちがお膳に並べて再現できるマグネット式のカードを製作しました。

ただし、この中には時代や階級の異なる人々の食事メニューも含まれており、授業の中で、奈良時代の貴族の食事だけを選び出す体験をすることもできます。



● メニュー

- ① クルマエビの塩焼き
- ② はすの実入りご飯
- ③ 白あえ ※材料の豆腐は、中世以降の食べ物です。
- ④ カモとセリの汁もの
- ⑤ ハンバーグとキャベツ ※一般的な家庭料理となったのは、第二次世界大戦後です。
- ⑥ 干したタコ
- ⑦ 焼きタケノコ、ふき・菜の花をゆでたもの
- ⑧ マグロとエビのにぎりずし ※にぎりずしは、江戸時代以降の食べ物です。
- ⑨ カキ
- ⑩ 玄米に近い白米 ※奈良時代の庶民の食事です。
- ⑪ 塩漬けのナスと干したキュウリを、ひしお【醤油に似た調味料】に漬けたもの。
- ⑫ 青菜の汁もの ※奈良時代の庶民の食事です。
- ⑬ サケと大根
- ⑭ 焼いたアワビ
- ⑮ 蘇【牛乳を長時間煮つめた乳製品】
- ⑯ 焼きギョウザ ※一般的な家庭料理となったのは、第二次世界大戦後という説があります。

⇒ 「※」の注釈が書かれているものは、奈良時代貴族の食事ではありません。

◆ もっかん も ぞうひん
木簡模造品

奈良時代の都、平城京跡から出土した木簡のうち、三重県の地名が記載された荷札木簡の模造品を製作しました。大きさはほぼ実物大で、フルカラー印刷と赤外線写真により文字が鮮明に表現されたものをそれぞれ 10 セット製作しました。



いせのくに かわわぐん あまてのり こほ
 伊勢国 川勾郡 安麻手里 五保
 土地の名前 単位

あまへのこおびと しょうまい いっく
 海部子首 春米 一斛
 人の名前 税の種類 量

(おおまかな意味)
 三重県鈴鹿市東部にあった安麻手の里の、
 海部子首が納めた米の税、約 81 リットル

容量の単位

	古代	現在
こ 合	約 81ml	約 180ml
し よ 升	約 810ml	約 1800ml
と 斗	約 8.1 L	約 18 L
こ く 石 (斛)	約 81 L	約 180 L

奈良時代



いがのくに いがぐん ながたこう
 伊賀国 伊賀郡 長田郷
 土地の名前

にいきのり いしべ みちのなが
 新木里 石部 道長
 人の名前 ※□は判読できず

(おおまかな意味)
 三重県伊賀市長田あたりにあった
 新木の里の、石部道長が納めた

※記載内容の読み方や単位などの説明は、
 奈良文化財研究所からの御教示を参考に、
 一説を紹介しています。



土地の名前
 みえぐん 三重郡
 かわじりごう 河後郷
 白米 白米
 五〇 五〇

税の種類
 ※〇は判読できず。単位か？

(おおまかな意味)
 三重県四日市市川尻町あたりの、
 白米、五(単位?)



土地の名前
 とうしぐん とうしごう
 答志郡 答志郷
 塩 塩
 三斗 三斗

税の種類
 量

(おおまかな意味)
 三重県鳥羽市答志町の、塩、約24リットル



土地の名前
 しまのくに 志摩国
 しまぐん 志摩郡
 わくごう 和具郷
 御調 御調

税の種類
 量
 時期

(おおまかな意味)
 三重県志摩市志摩町または鳥羽市答志町の、
 ワカメ約4キロを、四月十日に納めた

重さの単位

	古代	現在
もんめ 匁	約3.75g	3.75g
きん 斤	約675g	600g

※記載内容の読み方や単位などの説明は、奈良文化財研究所からの御教示を参考に、一説を紹介しています。

● 木簡とは？

うすい木の板に、墨と筆で文字が書かれているものを、木簡とよびます。発掘調査によってみつけられますが、とても腐りやすい木でできているので、条件が整っていないと、なかなかみつけられません。

しかし、奈良時代に都があった平城京跡(奈良県)は、木製品が残りやすい条件が整っていたこともあって、約17万点もの木簡がみつけられました。

木簡には、様々なことが書かれています。手紙、伝票や、習字の練習、落書きと思われるものもあります。木簡の中でも、荷物につけられたものには荷物の中身、送り主、時期などの情報が書かれており、荷札木簡とよびます。

平城京跡からは、三重県内の地名が書かれた荷札木簡がみつかっています。

◆ 食器・食事復元模型とパネル

貴族・庶民の食事パネルと庶民の食事の一部を復元しました。食器は、三重県内の遺跡から出土した土器を観察して、実際に粘土を焼いて製作しました。中身のメニューは、本物の食材を型どりして合成樹脂を使ってつくりました。



復元した土器の出土遺跡：ほったいせき 堀田遺跡（松阪市）

【メニュー】

- 青菜の汁

● 授業の流れ（一例）

- ねらい ● 奈良時代の貴族の食事の特徴を、食事カードを並べる体験を通して理解する。
- 平城京跡から出土した木簡模造品を通して、全国各地から特産物が税として都へ運ばれていたことを理解する。
- 奈良時代の貴族の食事を、食事カードを使って考えます。
 - 奈良の都（平城京）には、三重県を含め全国から特産物が運ばれていたことを、木簡模造品を使って解説します。
 - 本物の土器や食事復元模型、木簡模造品に触れて観察します。

● 三重県埋蔵文化財センターが発掘調査した奈良時代の遺跡

てんのうびらいせき 天王平遺跡（桑名市多度町）、ろくたんいせき 六谷遺跡（菟野町小島）、せんぼんづかいせき 千本塚遺跡（亀山市亀田町）、はしがい
 内遺跡（津市大里窪田町）、ほったいせき 堀田遺跡（松阪市嬉野宮古町）、いせでらいせき 伊勢寺遺跡（松阪市伊勢寺町）、
 すがいといせき 杉垣内遺跡（松阪市深長町）、たかぶくいせき 高向遺跡（伊勢市御菌町）、まきがようせきぐん 牧瓦窯跡群（多気町牧）、きたのいせき
 （明和町養村ほか）、いがこくちょうあと 伊賀国庁跡（伊賀市坂之下）、うたのいせき 歌野遺跡（伊賀市広瀬）、きたかどいせき
 市大谷北門）、かんのんじいせき 観音寺遺跡（名張市中村）

以上の遺跡については、当センターのすえきはじき 須恵器や土師器などを持参することができます。
 ※他にも、県内各地にたくさんの遺跡があります！

戦国時代

◆ 三重の城すごろく

三重県内の代表的な城や文化財などをとり上げたすごろくを製作しました。ルートは一周しており、好きな城を「ふりだし」「あがり」にすることができます。

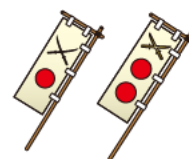
単なる早いもの勝ちではなく、城にたてた「のぼり旗」のポイント制にすることにより、逆転可能なルールになっています。



- すごろく盤：149 cm × 88.5 cm
- 製作部数：6セット
- コマ：7色





足軽コマ

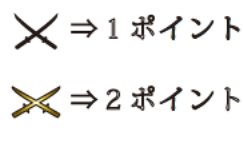


のぼり旗コマ



● ルール

- ① ジャンケンをして、「足軽コマ」の色と順番を決めます。
- ② 自分の「足軽コマ」と同じ色の「のぼり旗コマ」を準備します。
- ③ 全員スタート（どの城をスタートにするかは、担任が決める）に「足軽コマ」を置いて、準備完了。
- ④ 順番にサイコロ2個をふって、合計の数を進みます。
- ⑤  や  の城にとまったら、「のぼり旗」をたてます。
そして、班のみんなで城の名前を大きな声で読みましょう。



ただし、城1カ所につき、「のぼり旗コマ」は1つしかたてられません。

あとの人が同じ  や  にとまったら、合戦です！

お互いに、サイコロ1個をふって、多い目が出た人だけが、「のぼり旗コマ」をたてられます。

- ⑥ 最初にスタートまで戻ってきた人だけ、2ポイント。
- ⑦ 全員スタートまで戻ったら、自分がたてた「のぼり旗コマ」のポイント数を数えて、ポイント数の多い人が勝ちです。
※スタートに戻るのは、ちょうどの目でなくてもあがることができることとします。

● 掲載した城などの文化財

- 桑名市 : 桑名城、願証寺
- いなべ市 : 田辺城、大井田城、治田城
- 菰野町 : 田光城
- 四日市市 : 保々西城、市場城、伊坂城、采女城
- 鈴鹿市 : 神戸城、高岡城
- 亀山市 : 亀山城、峯城、新所城、加太城、正法寺山荘
- 津市 : 津城、伊勢上野城、安濃城、雲林院城、長野氏城、家所城、宮山城、木造城、北畠氏城館群、稲垣城
- 松阪市 : 松坂城、松ヶ島城、天花寺城、八田城、滝之川城、阿坂城、大河内城
- 多気町 : 五箇篠山城、笠木館
- 玉城町 : 田丸城
- 大台町 : 三瀬館
- 伊勢市 : 金剛證寺、大湊
- 度会町 : 一之瀬城、立岡城、麻加江城
- 鳥羽市 : 鳥羽城、桃取城、田城城、崎山城
- 志摩市 : 波切城、和具城、越賀城
- 南伊勢町 : 五ヶ所城、田曾城、薬師山城
- 大紀町 : 大内山城
- 紀北町 : 紀伊長島城、上里城
- 尾鷲市 : 曾根城、関山砦
- 熊野市 : 赤木城、竹原八郎館、鬼ヶ城
- 紀宝町 : 京城
- 伊賀市 : 伊賀上野城、丸山城、阿保城、掛田城、福持氏城、百地丹波守城、永井氏城、増地氏城、田矢伊予守城、雨乞山城館群、春日山城、川東城館群、北村氏館、福地氏城
- 名張市 : 柏原城、北畠具親城、下山甲斐守城、瀧川氏城

● 授業の流れ（一例）

- ねらい ● 城には天守や石垣があるような江戸時代以降の城だけでなく、天守や石垣のない山城がたくさんあることを理解する。
- 三重の城すごろくの体験を通して、三重県内各地に様々な城があることを理解する。
- 城の意味や種類について説明します。
 - 三重の城すごろくを体験します。
 - 気にいった城や調べてみたい城などを発表します。
 - 発表された城について解説します。

【参考文献】

福井健二・竹田憲治・中井均編『三重の山城ベスト 50 を歩く』サンライズ出版株式会社 2012
三重県『三重県史』資料編 考古2 2008年

各時代

◆ 三重の文化財すごろく

三重県内の代表的な文化財をとり上げたすごろくを製作しました。三重県内を端から端まで縦断する中で、様々な文化財に出会うことができます。ルールは単純な早いもの勝ちで、低学年でも楽しむことができます。



- すごろく盤：185 cm × 110 cm
- 製作部数：6セット
- コマ：7種



● ルール

- ① ジャンケンをして、コマと順番を決めます。
- ② 全員「ふりだし」にコマを置いて、準備完了。
- ③ 順番にサイコロ2個をふって、合計の数を進みます。
- ④ 文化財のところにとまったら、班で文化財の名前を大きな声で読みましょう。
- ⑤ より早く「あがり」に着いた人が勝ちです。

※「あがり」には、ちょうど目の目でなくてもあがることとします。

● 授業の流れ（一例）

ねらい ● 三重の文化財すごろくの体験を通して、三重県内各地に様々な文化財があることを理解する。

● 文化財には遺跡や古い建物だけでなく、動植物の天然記念物など様々な種類があることを理解する。

- 文化財の意味や種類について説明します。
- 三重の文化財すごろくを体験します。
- 気に入った文化財や調べてみたい文化財などを発表します。
- 発表された文化財について解説します。

● 掲載した文化財

- 桑名市 : 桑名城跡、七里の渡
 朝日町 : 繩生廃寺
 四日市市 : 久留倍官衙遺跡
 鈴鹿市 : 伊勢国府跡、伊勢国分寺跡、長太の大楠
 亀山市 : 関宿
 津市 : 明合古墳、北畠氏館跡庭園、津城跡、谷川土清旧宅
 松阪市 : 粥見井尻遺跡、天白遺跡、宝塚古墳、向山古墳、大河内城跡、松坂城跡、
 本居宣長宅跡、ネコギギ（中村川）
 明和町 : 坂本古墳群、斎宮跡
 玉城町 : 田丸城跡
 伊勢市 : 離宮院跡、朝熊山経塚群、二見浦
 鳥羽市 : 鳥羽城跡
 志摩市 : おじよか古墳、志摩国分寺跡
 紀北町 : カンムリウミスズメ
 熊野市 : 赤木城跡、鬼ヶ城・獅子巖、楯ヶ崎、瀨八丁
 東紀州 : 熊野参詣道
 伊賀市 : 城之越遺跡、御墓山古墳、伊賀国庁跡、伊賀国分寺跡、上野城跡、蓑虫庵
 名張市 : 美旗古墳群、夏見廃寺跡
 その他 : オオサンショウウオ、紀州犬、ニホンカモシカ

【参考文献】

- 三重県『三重県史』資料編 考古1 2005年
 三重県『三重県史』資料編 考古2 2008年



◆ ふるさと三重めぐり

三重県内の代表的な文化財や産業、自然などをとり上げたすごろくを製作しました。ルートは一周しており、好きな場所を「ふりだし」「あがり」にすることができます。

文化財などの場所には、ポイントが記入されており、そこにとまるとポイントを獲得することができます。ポイント数は+5~-2ポイント。勝敗は、このポイントの合計で決まるので、最後まで誰が勝つのかわかりません。

もちろん、低学年では単純な早いもの勝ちのルールでも使用できます。

● 学校側の準備物

- ・サイコロ（できれば各班2個ずつ）
- ・コマ（児童の消しゴムなどでよい）
- ・ポイントをメモするプリント（本冊子24ページ）
- ・筆記用具

● ルール

- ① ジャンケンをして、順番を決めます。
- ② 全員スタート（どこをスタートにするかは、担任が決める）にコマを置いて、準備完了。
- ③ 順番にサイコロ2個をふって、合計を進みます。
※サイコロが1個の場合は、その数進む。
- ④ ポイントが書かれているところにとまったら、ポイントメモします。
そして、班でその場所の名前を大きな声で読みましょう。

ポイントのつけ方

- +ポイントは、上の枠内の○を、ポイント数だけ塗りつぶします
- ポイントは、下の枠内の○を、ポイント数だけ塗りつぶします

- ⑤ 最初にスタートまで戻ってきた人だけ、その場所のポイントを獲得することができます。もし、-ポイントの場所だった場合は、特別に+ポイントにしてあげてください。スタートだけは、早いもの勝ちです。
- ⑥ 全員スタートまで戻ったら、各自ポイント数を計算します。
+ポイント合計から、-ポイント合計を引いてください。
ポイント数の多い人が勝ちです。
※スタートに戻るのは、ちょうどの目でなくてもあがることとします。

【オプションルール】

もし、同じタイミングで、同じところにコマがとまったら、そのポイントは、1人しか獲得することができないこととします。

サイコロをお互いに1つずつふって、**合戦をします！** 多い目の出た人が勝ちです。負けた人は、そのポイントを-ポイントとして塗りつぶしてください。

ただし、その場所が-ポイントの場所だった場合は、勝った人が+ポイントとして塗りつぶしましょう。

● 掲載内容のひとこと解説

- 七里の渡跡 (桑名市)**: 東海道の桑名と尾張の熱田との海上七里 (約 30km 弱) の間を渡し船で往来していた頃、桑名側にあった船着き場の跡。 ※文献 1.p 4
- 木曾三川 (桑名市・木曾岬町)**: 濃尾平野を流れる木曾川、揖斐川、長良川の総称。下流域では、水害を防ぐため、堤防で囲まれた輪中が形成されている地域がある。 ※文献 1.p 4・7
- ネコギギ (いなべ市ほか)**: ナマズの仲間で、伊勢湾に注ぐ河川にのみ生息する約 7~10cm の淡水魚。員弁川では平成 15 年度以降、三重県といなべ市で個体数を増やす事業を展開している。 ※文献 1.p 10
- 穴太薬師如来坐像 (東員町)**: 神田神社に隣接する薬師堂に安置されている仏像。平安時代中頃にヒノキから「一木造」でつくられ、江戸時代の修理で着色が施された。 ※文献 1.p 13
- 久留倍官衙遺跡 (四日市市)**: 古代の伊勢国朝明郡の役所跡とみられる遺跡で、役所の中心的な建物群や倉庫などがみつかった。
- 四日市萬古焼 (四日市市)**: 「国の伝統的工芸品」に指定された地場産業で、急須や土鍋の生産が有名。 ※文献 1.p 14
- マコモ (菟野町)**: イネ科の植物で、池や沼、川岸などに生える。茎が柔らかく大きくなると、中国や日本では食用になる。菟野町は、マコモが生い茂った野原であったことから、その名がついた。 ※文献 1.p 20
- 飛塚古墳 (菟野町)**: 直径約 35m の円墳と思われる古墳時代前期末 (約 1600 年前) の古墳。赤く塗られた埴輪が出土。
- 御在所岳 (菟野町)**: 鈴鹿国定公園の中にある、標高 1212m の山。珍しい動植物が生息する。 ※文献 1.p 19
- 縄生庵寺跡 (朝日町)**: 7 世紀末頃に建てられた奈良時代の寺院跡。塔の中心の地下から、中国製の三彩碗を伴う舍利容器 (釈迦の遺骨を納める容器) が出土し、重要文化財に指定された。 ※文献 1.p 22
- 火力発電 (川越町)**: 海岸の埋立地に、中部電力川越火力発電所があり、その総出力は 480.2 万 kw で、世界最大級の火力発電所である。 ※文献 1.p 23
- 伊勢国分寺跡 (鈴鹿市)**: 奈良時代に建立された伊勢国の国分寺の跡。
- 石薬師東古墳群 (鈴鹿市)**: 本冊子 p 8
- 井田川茶臼山古墳 (亀山市)**: 本冊子 p 10
- 龜山城跡 (亀山市)**: 16 世紀中頃に関氏が現在の場所に築城した城。多門櫓は三重県内で唯一現存する城郭建造物。 ※文献 1.p 31
- 関宿 (亀山市)**: 大和街道と伊勢別街道が分岐する宿場町 (東海道 47 番目) として栄えた。 ※文献 1.p 31
- 明合古墳 (津市)**: 一辺 60m の方墳の両側に、方形の盛り土 (造り出し) をもつ大変珍しい形をした 5 世紀前半の古墳。
- 六大A遺跡 (津市)**: 古墳時代を中心とした水辺の祭祀遺跡。祭祀用の木製品や朝鮮半島の影響を受けた土器など、珍しい遺物が大量にみつかった。
- 津城跡 (津市)**: 織田信長の弟、信包が建て、その後、藤堂高虎が大改修した城。江戸時代を通じて、藤堂家代々の城となった。 ※文献 1.p 34
- 谷川土清旧宅 (津市)**: 日本初の五十音順国語辞書をつくった江戸時代の国学者、谷川土清の家屋。 ※文献 1.p 35
- 北畠氏館跡庭園 (津市)**: 室町時代から国司として伊勢を治めた北畠氏の館跡 (現在は北畠神社の境内) に現存する南北朝時代の代表的な庭園。 ※文献 1.p 33
- 天白遺跡 (松阪市)**: 縄文時代後期 (約 4 千年前) の西日本最大級の祭祀遺跡。石を並べた遺構や、多量の遺物がみつき、中でも土偶は三重県下一の数を誇る。
- 本居宣長旧宅・同宅跡 (松阪市)**: 『古事記伝』などを著した国学者、本居宣長の家屋跡で、建物は現在、松坂城跡の中に移築されている。 ※文献 1.p 38
- 松坂城跡 (松阪市)**: 蒲生氏郷が 1588 年に築いた城。江戸時代には紀州徳川家の城となった。
- 宝塚1号墳 (松阪市)**: 本冊子 p 9
- 粥見尻遺跡 (松阪市)**: 本冊子 p 4
- 高見山 (松阪市)**: 奈良県境にある標高 1248m の山。冷え込んだ冬の朝に霧氷や樹氷を見ることができる。
- ミズバショウ (松阪市)**: サトイモ科の植物で、飯高町の波瀬植物園では 4 月頃に開花する。
- 立梅用水 (多気町)**: 約 200 年前、新田を開発し米をつくるため、櫛田川をせきとめてつくった全長 30km にも及ぶ農業用水。
- 斎宮跡 (明和町)**: 伊勢神宮に仕えた斎王 (主に天皇の皇女) がくらしした広大な宮殿や役所の跡で、奈良時代から 600 年以上も続いた。 ※文献 1.p 46
- 宮川ダム (大台町)**: 宮川は延長約 100km、流域面積約 920km² の三重県最大の河川で、宮川ダムは洪水や干ばつを防ぐため 1957 年に完成した。 ※文献 1.p 48

- 出張遺跡(大台町):旧石器時代(1万数千年以上前)の遺跡で、ナイフ形石器や石器の材料となる石材片がみつかった。 ※文献 1.p 49
- 伊勢神宮(伊勢市):皇大神宮(内宮)および豊受大神宮(外宮)と所属する宮社の総称。2013年に第62回目となる式年遷宮が行われた。 ※文献 1.p 52
- 二見浦(伊勢市):砂浜の東側に夫婦岩がある景勝地。浜辺は日本で最初の公認海水浴場。 ※文献 1.p 53
- 朝熊山経塚群(伊勢市):朝熊山の山頂付近に、平安時代以降の経塚が43基みつかった。出土品の一部は国宝。
- 田丸城跡(玉城町):伊勢本街道と熊野街道が合流する要地に、室町時代初頭頃、幕府に対抗した北畠親房が南伊勢支配の拠点として築いた城で、その後、織田信長の次男、信雄が改築した。 ※文献 1.p 55
- 暖地性シダ群落(南伊勢町):押淵地区の山間部にアツイタ、キクシノブなどのシダが生育している。 ※文献 1.p 59
- 野添大辻遺跡(大紀町):縄文時代早期(約9500年前)の遺跡で、竪穴住居6棟、縄文土器、石器などがみつかった。
- 大内山の酪農(大紀町):1948年から旧大内山村で本格的に牛乳の生産、販売が始まり、その後学校給食牛乳として三重県内の学校へ供給され、広く知られるようになった。 ※文献 1.p 61
- 一之瀬城跡(度会町):約650年前の愛洲氏の城で、一時、後醍醐天皇の皇子宗良親王がいたと伝わる。 ※文献 1.p 63
- 蟹穴古墳(鳥羽市):答志町にある7世紀頃の古墳で、横穴式石室をもち、高さ55.7cmの大型の壺が出土し、重要文化財に指定されている。
- ゲーター祭り(鳥羽市):神島町で元旦の未明に行われる祭り。太陽を形取った白い輪を竹で突き上げる。 ※文献 1.p 67
- 鳥羽城跡(鳥羽市):九鬼水軍で名高い九鬼嘉隆が建てた城。海に向かって大手門が開く「海の城」。 ※文献 1.p 66
- 志摩国分寺跡(志摩市):奈良時代に建立された志摩国の国分寺跡。現在のお寺の境内から瓦が採集されている。
- おじよか古墳(志摩市):海岸の近くに築かれた5世紀後半の古墳。横穴式石室は九州北部の特徴をもつといわれる。
- 城之越遺跡(伊賀市):古墳時代の水辺の祭祀遺跡。石を敷き詰めてつくった大溝や井戸がみつかった。
- 伊賀国分寺跡(伊賀市):奈良時代に建立された伊賀国の国分寺跡。 ※文献 1.p 74
- 上野城跡(伊賀市):戦国時代の城を江戸時代に藤堂高虎が改築した城。高さ約30mの石垣は日本有数の高さを誇る。
- 東条1号墳(伊賀市):本冊子 p 9
- 御墓山古墳(伊賀市):全長約180mの三重県最大の前方後円墳で、5世紀前半に築かれた。
- 夏見庵寺跡(名張市):7世紀末に建てられた寺院跡で、金堂、塔、講堂が建ち並び、金堂には埴仏(仏像を型押ししたレンガ)をはめ込んだ荘厳な金色の壁があったと考えられている。 ※文献 1.p 78
- 美旗古墳群(名張市):5基の前方後円墳が5世紀初め~6世紀前半に次々とつくられた古墳群。伊賀南部の代々の王の墓と考えられている。
- さんま寿司(尾鷲市):熊野灘でとれた脂の少ないサンマを丸ごと使った押し寿司。 ※文献 1.p 80
- 尾鷲ヒノキ(尾鷲市):全国有数の降水量が育んだ良質なヒノキ。 ※文献 1.p 79
- カムリウミスズメ(紀北町):全長24cmほどの海鳥で、夏になると頭に冠のような羽が生える。三重県では紀北町の耳穴島だけに生息し、天然記念物に指定されている。
- 楯ヶ崎(熊野市):熊野の海岸にある高さ約80m、周囲約550mの岩壁。無数の柱が連なったような柱状節理が特徴。
- 獅子巖(熊野市):獅子が海に向かってほえるような形の、高さ約25mの岩。熊野参詣道とともに世界遺産のひとつ。
- 瀬八丁(熊野市):熊野の支流、北山川沿いの峡谷で、両岸は絶壁をなしている。
- 赤木城跡(熊野市):藤堂高虎が北山の在地豪族らを討伐するために築いた城。当時最先端の技術で石垣が築かれた。 ※文献 1.p 86
- 紀州犬(御浜町):柴犬の次によく飼われている日本犬で、天然記念物に指定されている。御浜町坂本に狩猟犬としての紀州犬発祥の伝承がある。 ※文献 1.p 88
- 京城跡(紀宝町):戦国時代に新宮城主の堀内氏が築いたと伝わる城。石垣が残る。
- 熊野参詣道(東紀州各市町):和歌山県の熊野三山へお参りするのための道で、「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年に世界遺産に登録された。
- ニホンカモシカ:牛の仲間、枝分かれしない2本の角をもつ日本固有の動物。崖地を好み、三重県では鈴鹿山地と紀伊山地に生息する。特別天然記念物に指定されている。体長約1m、体重30~45kg。
- オオサンショウウオ:世界最大の両生類で、一般的に50~70cm、最大で1.5mになるものもいる。約3千万年前から姿がほとんど変わらず、「生きた化石」ともよばれている。特別天然記念物に指定されている。

【註】文献1:三重県教育委員会『三重の文化』郷土の文化編 2010年